

- 1 教育事業名 「いきいき自然体験キャンプ」～自然にふれ、仲間と出会い、そして新しい自分に気づく旅～
- 2 ね ら い 不登校や諸問題を抱える子供たちが渡嘉敷島の素晴らしい自然の中で様々な活動を体験することで、出会った仲間と協力し合い、励まし合い、認め合い、そして新しい自分に気づくことで、日常生活において前進するきっかけになることを目的とする。
- 3 期 日 令和3年10月26日(火)～10月29日(金) 3泊4日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 県内小中高等学校適応指導教室等に通級する児童生徒25名程度
児童生徒の関係者(適応指導教室職員等) 10名程度
- 6 参加人数 4教室 27名
- 7 参加者内訳 小学生1名 中学生17名 適応指導教室引率職員9名
- 8 講師
 - ・照屋 寛信氏(手作り遊び工房ふぁーかんだー) クラフト・野外活動指導
 - ・森 有紀子氏(スノーケリング公認指導員) スノーケリング指導
 - ・木島 悠太朗氏((一社)JAPAN WATER PATROL) スノーケリング指導
 - ・米田 英明氏(琉球新報社渡嘉敷村通信員) 平和学習講師

9 実施プログラム

	6:30	7:00	8:00	9:00	10:00	11:10	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
10/26 (火)				とまりん 集合・ 乗船	泊港 出港	渡嘉敷港着 受付、キャン プ場へ移動	昼食 (弁当)	オープニング・ ふれあいレク・ 思い出表現		火起 こし	夕食 (野外炊事)		本館へ 移動	入所オリエ ンテーション	入浴	ふり返り	就寝 (本館)
10//27 (水)	起床・洗面 朝のつどい	朝食 (食堂)	海洋研修 場へ移動	海洋研修(大型カヌー・オープンカヤック・スノーケリング・水泳) スノーケリング・水泳 昼食(弁当)						着替え	本館へ 移動	ゆとりの 時間	夕食 (食堂)	入浴	灯りの 時間	ふり返り	就寝 (本館)
10/28 (木)	起床・洗面 朝のつどい	朝食 (食堂)	海洋研修 場へ移動	大型カヌーでアリガー地区へ移動(弁当) 海洋研修(スノーケリング)					海洋研修 場へ移動	着替え ゆとりの時間	本 館 移 動	ゆとりの 時間	夕食 (食堂)	入浴	星空の 時間	ふり返り	就寝 (本館)
10/29 (金)	起床・洗面 朝のつどい	朝食 (食堂)	清掃・荷物 移動 清掃チェック	平和学習			昼食 (食堂)	エンディング アンケート	渡嘉敷港 へ移動	フェ リー 乗船	渡嘉敷港 出港 フェリー	泊港着 ・解散					

10 事業の様子



ふれあいレクリエーション



野外炊事



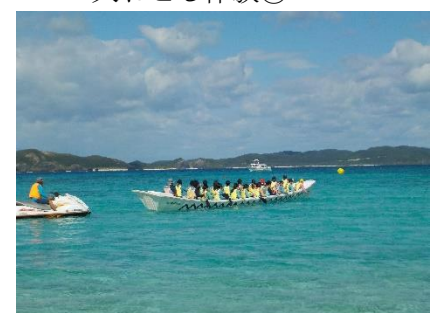
火おこし体験①



火おこし体験②



灯りの時間



アリガーチャレンジ



クラフト作成



平和学習



エンディング・発表

11 エピソード（参加者の声、アンケートより）

【参加者（生徒）の声】

- ・大型カヌーを協力しながら漕ぐのがとても楽しかったです。二日連続で海亀をみることができた。
- ・泳ぎは慣れてなくて不安だったけど綺麗な景色が見れて満足。
- ・仲間とカレー作りができてよかった。最高に美味でした。
- ・周りに街灯がない空の景色はとても神秘的で感動して涙が出ました。
- ・平和学習が勉強になった。

【参加者（引率者）の声】

- ・子供たちのイキイキとした表情や行動が印象に残っています。
- ・各教室の雰囲気が異なり、子供たち同士が一緒に交流している場合はもちろん、そうではない場合でも、同じ空間で感じられたことがいい刺激になったと思います。
- ・海のアクティビティが中心ですごく良かった。いつのも何十倍も歩いたり動いたので、疲れと共に心地よさを感じました。
- ・子供たちの成長が見れました！中学3年生が多い為、中学校生活の良い思い出になったと思います。
- ・人前で発表することが苦手な子供たちが、このキャンプに参加したことで、少し自信がつき、感想をみんなの前で発表できたのだと思います。

12 担当者所見

（1）成果

- ・海洋研修について、天候の関係により当初の予定とは違うプログラムになってしまったが、子供たちがしっかりと対応してくれた。
- ・大型カヌーで慶良間海峡に漕ぎ出す「アリガーチャレンジ」やスノーケル等の海洋研修、ただただ海を眺め風を感じる時間、星空の下での語らい等を通して、子供たちが渡嘉敷島の自然を楽しみ、自然に感動する姿が見られた。
- ・教室毎のカラーや個人差があり、はじめは周りとの関わりに消極的だった生徒も、事業が進むにつれて本人なりの距離感で関わっていけるようになった。
- ・自分の思いや考えを伝えることができるようになるなど、積極的に行動できるようになり、笑顔で対応ができるようになった生徒もいた。
- ・子供たち、引率者、講師、交流の家スタッフが、連携・協力しながら取り組み、みんなで作り上げた事によって、（平和学習以外の）どのプログラムも笑顔のあふれる充実したものになった。
- ・事業を通して子供たちは互いに協力し合い、語り合い、交流することや、様々な体験活動を通して、それぞれが新たな自分を見つけることができ、自信をもつことができた。

（2）課題

- ・今年度は天候の関係で事業中に急なプログラムの変更があったが、参加者の意欲と交流の家のスタッフが連携・協力したことで対応できた。次年度についてもこのような対応ができるようにしたい。ただ、日程が変更となる場合でも、ゆとりあるプログラムになるよう心がけたい。
- ・今年度はコロナ過の影響もあり延期日程での開催となった。その為、各適応指導教室の担当職員と連絡を密に取る必要があった。また、日程の変更により、県教育センターの職員の派遣ができなかったため、次年度は改善したい。次年度も沖縄県適応指導教室連絡協議会との連携を密にとりながら事業の準備に取り組む。